

文化

昭和初期
に競技場近
くで幼少期
を送った作
家の澤地久
枝さんは

現競技場の維持改修を訴える作家の森まゆみさんらのグループ「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」には多くの賛同者がメッセージを寄せている。

「べりとぐら」で知られる絵本作家の中川李枝子さんは「庶民の良識をないがしろにしないで」。比較文学者で、今年の宮中歌会始の召人も務めた芳賀徹さんは「聖徳記念絵画館からの遠近法の景観が破壊されることも耐えられません」とコメントしている。

各界に賛同広がる

「(現在では)東京にはどこにもわたしの郷里はありません。辛うじてこの静謐がふるさどです」と変わりゆく東京の風景を憂えた。文化勲章受章者の経済学者宇沢弘文さんは「今は原発の処理、大震災後の罹災者、市町村の社会の立て直しに知力、資力、資材を最大限に生かすべき」と訴えた。

このほか、安野光雅(画家)、池内了(宇宙物理学者)、上野千鶴子(社会学者)、宮台真司(同)、落合恵子(作家)、椎名誠(同)、加藤典洋(文芸評論家)、坂田明(サックス奏者)、中島岳志(政治学者)、中村桂子(生命科学者)、松原隆一郎(経済学者)、山田洋次(映画監督)の各氏

らも賛同を寄せた。人類学者の中沢新一さんは建築家の伊東豊雄さんに独自改修案の作成を促した。

都市部のヒートアイランド現象を研究する三上岳彦、帝京大教授は十五日に都内であったシンポジウムで「巨大競技場ができることで、都心の気温を下げていく海風の流れが阻害される」との見方を示した。環境アセスメントの第一人者である原科幸彦(千葉商科大)教授は「開発の際には人々が懸念する事項は全て事前に調査するのが世界の流れ。今回は計画決定の前に公共空間での議論がなく、めちゃくちゃなプロセスで進んだ。日本の民主主義が問われている」と批判した。